

## 鳥インフルエンザ発生時の迅速かつ的確な初動防疫のための防疫計画書の作成

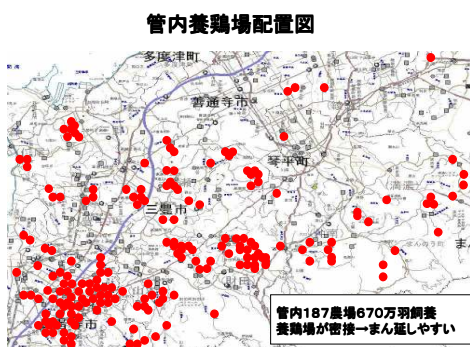
西部家畜保健衛生所 防疫課

○今雪幹也 坂下奈津美 三好里美 笹田裕司

### はじめに

高病原性鳥インフルエンザ（以下鳥フル）は、まん延すれば、養鶏産業に及ぼす影響は甚大となる。図1は、管内養鶏場の分布を示したものであるが、管内には県内有数の養鶏地帯があり、全187農場、670万羽を越す鶏が飼育されている。

現状では、鳥フルが発生した場合、鶏舎構造や周辺環境など現地調査を行い、殺処分等の防疫措置を実施することになっているが、調査に時間を要すれば、初動開始や防疫措置終了が遅れることになる。このことから、今回、事前に現地調査を行い、鳥フル発生時には、その再確認だけで、防疫措置に入れるよう管内全養鶏場の防疫計画書作成に取りくんだので報告する。



(図1)

### 取り組みの概要

防疫計画書作成手順は、1. 調査項目を検討 2. 現地調査方法の検討 3. 現地調査 4. 各農場の防疫措置を検討、5. 全農場の防疫計画書とした。

#### 1. 調査項目を検討

聞き取り項目は、鶏舎ごとの飼養羽数、鶏舎構造、鶏舎形態、ケージの段数・列数、通路数、農家の現有機材や汚染物品量等について調査した(図2)。農場周辺見取図では敷地の長さ・幅、立入禁止看板や着替え用のテント設置場所等について、農場見取図では、鶏舎の長さ・幅、殺処分スペースや作業動線等について、埋却地見取図では、その面積や進入路幅、周辺環境等について調査した(図3)。

## 1 調査項目の検討

### ①聞取り項目

	飼養羽数	構造		形態		ケージ			通路数	鶏舎を覆うシート (Om×Om) 〇枚
		開放	無窓	低床	高床	平飼	段	列		
鶏舎①										
鶏舎②										

- ・敷地面積 \_\_\_\_\_ m<sup>2</sup>
- ・埋却候補地の有無
- ・農家の現有機材 (ショベルローダー、ダンプ等の保有状況)
- ・汚染物品
  - 卵 \_\_\_\_\_ t 鶏糞 \_\_\_\_\_ t
  - 飼料 \_\_\_\_\_ t 堆肥 \_\_\_\_\_ t



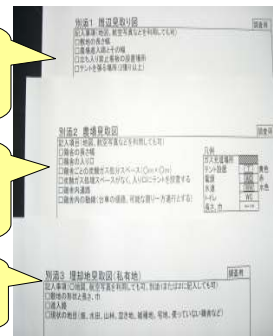
(図 2)

### ②見取図

1. 農場周辺見取図(別添1)
  - ・敷地 長さ×幅 進入路幅
  - ・看板の設置場所
  - ・テント設置場所(2張り以上)

2. 農場見取図(別添2)
  - ・鶏舎 長さ×幅 入口・通路幅
  - ・殺処分スペース(炭酸ガス注入)
  - ・作業動線

3. 埋却地見取図(別添3)
  - ・形状 面積 進入路幅
  - ・地目 周辺環境



(図 3)

## 2. 現地調査方法の検討

調査機関は平成 23 年 7 月から 10 月、方法は、農場ごとに主担当、副担当を置き、1 人当たりの担当農場は約 40 農場、1 農場につき、2 名の家畜防疫員が情報を把握するようにした(図 4)。

### 2 現地調査方法の検討

調査期間：平成23年7～10月

方 法：農場ごとに主担当・副担当を設定

(1人当たりの担当農場は約40農場)



1農場につき2名の家畜防疫員が情報を把握

(図 4)

## 3. 現地調査

写真 1 は、鶏舎内の調査、テント設置スペースの調査、埋却地面積の測定、殺処分スペースの測定を示した。

### 3.現地調査



(写真 1)

#### 4. 各農場の防疫措置を検討

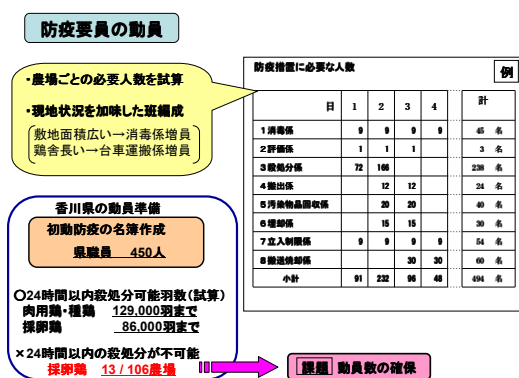
現地調査終了後、迅速かつ的確な初動防疫に必要な検討項目を協議し、①防疫要員の動員、②必要機材・資材、③農場内配置図、④殺処分方法、⑤焼埋却方法とし、農場ごとに対策や課題を検討した。

##### ①防疫要員の動員

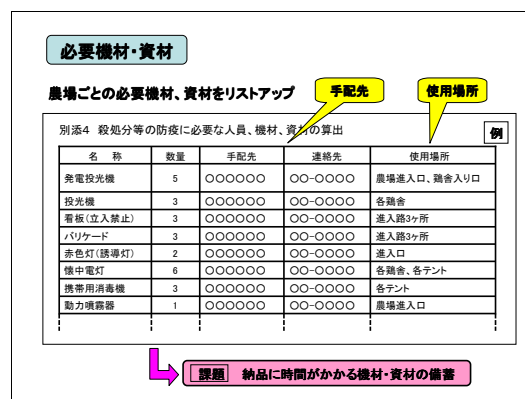
消毒係や殺処分係などの発生地班 8 つの係りについて鳥フル発生から防疫措置完了までに必要な人員を作成した。作成に当たっては、敷地面積が広い農場では、消毒係りの増員、鶏舎の長い農場では、台車運搬係の増員等を検討した。また、香川県では、県職員の初動防疫確保人数は最大 450 人であり、この人数で、24 時間以内に殺処分可能な羽数は、肉用鶏・種鶏で 129,000 羽、採卵鶏で 86,000 羽までと試算された。この飼養羽数以上の農場は、採卵鶏農場が 13 農場あり、当該農場については、動員数の確保が課題となった（図 5）。

##### ②必要機材・資材

殺処分等の防疫措置に必要な機材・資材をリストアップし、農場ごとに必要な数量を試算した。さらに、各機材・資材の手配先、手配先の連絡先、使用場所についてもとりまとめ、鳥フル発生時には、直ちに発注できる体制としたが、今後、納品に時間がかかると考えられる機材・資材については、事前の備蓄が必要と考えた（図 6）。



(図 5)



(図 6)

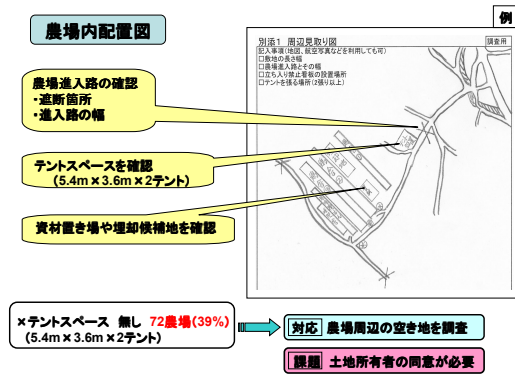
##### ③農場内配置図

現地調査の農場周辺見取り図作成では、各農場の進入路、着替え用テントスペース、資材置き場や、埋却候補地等の確認を行ったが、着替え用のテントスペースの有無について、調査した結果、農場敷地内に 40m<sup>2</sup>程度のテントスペースが確保できない農場が 72 農場 (39%) あった。この対応として、農場周辺で設営可能な場所を調査したが、今後、これらの土地所有者の同意の確認が必要と考えられた（図 7）。

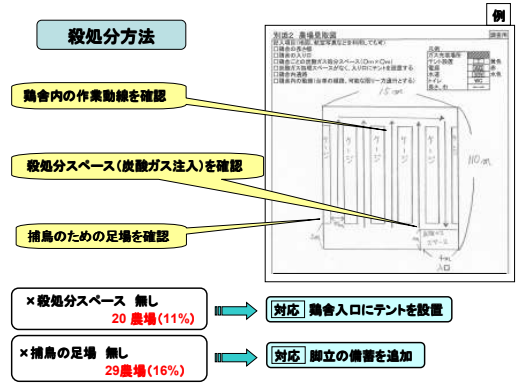
##### ④殺処分方法

現地調査の農場見取り図作成では、各農場の鶏舎内の作業動線、殺処分スペース、捕鳥のための足場等の確認を行ったが、鶏舎内入口に十分な殺処分スペースが確保できない農場が 20 農場

(11%) あった。この対応として、鶏舎入口にテントを設置し、周囲をブルーシートで覆い、殺処分を実施すると考えた。また、捕鳥のための足場の有無について、足場のない農場が 29 農場 (16%) あった。この対応としては、脚立の備蓄追加が必要と考えられた (図 8)。



(図 7)

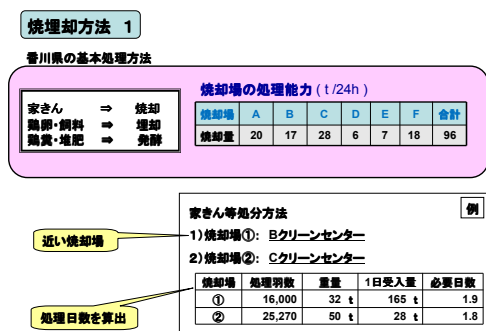


(図 8)

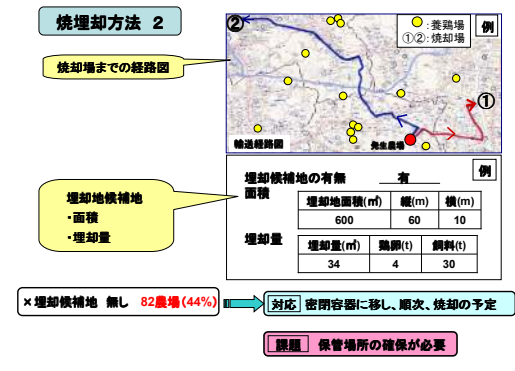
⑤焼埋却方法

香川県では、基本処理方法として、鶏は焼却処理、鶏卵・飼料は埋却処理、鶏糞・堆肥は発酵処理を考えている。家きんについては、鳥フルが県内のどこで発生しても、焼却してもらえる協力体制が県内 6ヶ所の焼却場とできており、廃棄物焼却炉の 1割に当たる 1日最大 96tの焼却が可能となっている。家きんの焼却については、今回、農場ごとに近い焼却場を調査し、その焼却場の 1日受入れ量と飼養羽数から焼却処理にかかる日数を試算した (図 9)。

また、農場から焼却場までの輸送経路図については、農場ごとに利用する焼却場までの経路図を他の養鶏場を避けた最短距離で記載した。埋却候補地の有無について調査した結果、ない農場が 82 農場 (44%) あった。この対応として、鶏卵・飼料についても焼却場での焼却可能となり、結果、鳥フル発生時には、鶏卵・飼料についても密閉容器に移し、順次、焼却することになった。ただ、焼却までの密閉容器保管場所の確保が課題となっている (図 10)。



(図 9)



(図 10)

## 5. 全農場の防疫計画書を作成

写真2は、問題点に対する協議終了後、完成した管内全187農場について完成した。

### 5 全農場の防疫計画書を作成



(写真2)

## まとめ

防疫指針が、昨年10月改正され、「原則、24時間以内の殺処分、72時間以内の焼埋却」が示された。

今回、迅速かつ的確な初動防疫を目的に全養鶏場の防疫計画書の作成に取り組み、調査様式を設定し、2名が約40養鶏場を担当とした。2名が農場を知っておくことでよりの確な初動防疫体制が取れると考えられた。

また、調査結果から、殺処分スペースや着替え用テントスペース、捕鳥の際の足場、鶏の処分や汚染物品の処分方法について検討し、テント設置や空き地利用、備蓄や焼却などの対策を考えた。そして、管内187養鶏場の事前の防疫計画書が完成した。実際、大規模養鶏場の現地調査では1日以上、計画書作成も1日を要することもあったが、事前に防疫計画書があることによって、鳥フルの発生時や続発時に、これらの作成に要する時間が短縮でき、的確な初動防疫が期待できると考えた。

今後の課題として、大規模養鶏場での発生に備えた動員の確保、備蓄の充実などに取り組むとともに、防疫演習実施による防疫計画書の検証など、さらに精度の高いものを目指していきたい。